

「被爆建物」広島アンデルセン物語

(竹の台 TH)

先月行われた「被爆ピアノコンサート」の感動もさめない6月はじめ、尾道に住む娘宅へ孫サポに行きました。おしゃべりの中で「広島のアンデルセンレストランが人気みたい、行ってみたいね」と娘が言う。「えっ、アンデルセン？よく行ったよ、たしか被爆建物やで！」被爆ピアノに感動した余韻がまだ続く私に被爆建物アンデルセンの記憶がよみがえった！ 矢も楯もたまらず翌日に孫二人、娘、母の4人、広島市内へ車を走らせました。

30数年前、広島に住んでいた頃、度々「アンデルセン」で食事を楽しみました。「被爆建物」と聞いた石造りの重厚な建物、その頃珍しかったセルフサービス（パン食べ放題）、料理も美味しかったアンデルセンが大好きでした。

*****記憶どおりアンデルセンは、元旧帝国銀行の建物であった。爆心地から360mで被爆し、原爆ドーム、レストハウスに次いで爆心地から3番目に近い建物であった。大部分は崩壊したが、地下の金庫は無事だったため営業を続けたのち、1967年タカキベーカリーが建物を買い取り、リノベーションを施し、広島アンデルセンとしてオープンした。

(被爆建物は、爆心地から5km以内に現存する86件が登録されている。)

*****1948年に創業をはじめた高木俊介は10年後、欧米視察に出かけ、デンマーク・コペンハーゲンのホテルで食べたデニッシュペストリーのおいしさに心を打たれ、デンマークからパン職人を招き、開発に取り組む。店名はデンマークの童話作家アンデルセンに由来。

デンマーク国王夫妻、皇太子も店舗を訪れ、デンマークとの交流は深く、アンデルセン生誕200年にはデンマークのランゲリニエ公園に200本の桜を寄贈、デンマークに「アンデルセン」出店、営業を続けている。

*****原爆に耐えた金庫室は扉を撤去して冷蔵庫とするなど内部を改修したが、爆心地と反対側の東側と北側の外壁は被爆した当時のまま残っていた。耐震性の不安から2016年、工法をめぐり検討に検討を重ねたが、建て替えを決めた。被爆した外壁から耐久性に問題がない約50平方メートルだけを切り出し、新店舗の2階部分の東側外壁に貼り付けた。4年半の歳月をかけて、2020年に現在の新店舗がオープンした。

30数年ぶりに訪れたアンデルセンは、外観は当時の面影が残っていて、懐かしさでいっぱいでした。店内はすっかり変わっていて、明るくモダンな佇まい、2階のレストランは、広々としたフロアで、この日も満席でした。行き届いた接客にとっても好感が持てました。パンも料理もとても美味しかったです。広島の復興と共に歩んだアンデルセン、その歩みを知る事で、広島の人たちから愛され続けている理由が伺えました。

神戸にも三宮そごうに店舗があったようですが、そごうの撤退と共に閉店したそうです。



被爆直後の旧帝国銀行



1967年アンデルセンオープン



2025年6月4日撮影